

強度靱性抵抗型補強工法

■増設ブレース

既存フレームに鉄骨ブレースを接合することにより、強度の向上および靱性の向上を図る工法です。

- 増設耐震壁に比べて大きな開口を設けられるため、採光性や通風性に富む工法です。
- 補強後の重量増加が小さいので、基礎耐力に余裕のない建物にも適用できます。
- 建物の外側に取り付ける場合は、建物内部の工事がほとんどなく、居ながら施工が可能です。



■増設耐震壁

新たに耐震壁を設けることにより、強度の向上もしくは靱性の向上を図ることができます。

- 強度抵抗型とするか靱性抵抗型とするか設計により対応することができます。
- 建物全体の剛性バランスを考慮した配置により、強度や靱性の向上のみでなく、偏心率・剛性率の改善にも期待できます。



■柱鋼板巻補強

柱に鋼板を巻立て、隙間にモルタルを充填するもので、強度の向上および靱性の向上を図る工法です。

- 方向性の無い鋼板を巻くため曲げおよびせん断に対して有効な補強工法であり、建物の強度と靱性を同時に改善します。
- 他の柱補強工法に比べて最も強度向上に期待できる工法です。

■スリット処理

既存短柱の腰壁やたれ壁を除去したり、柱から切り離して長柱化することにより、靱性の向上を図る工法です。

- 補強後の重量増加が無いので、基礎耐力に余裕のない建物にも適用できます。
- 建物全体の剛性バランスを考慮したスリット処理により、靱性向上のみでなく、偏心率・剛性率の改善にも期待できます。

○お問い合わせ

大日本土木 (株)	建築本部	建築技術部	TEL 03-5326-3953	e-mail: tec_info@dnc.co.jp
	東京支店	リニューアルグループ	TEL 03-5326-3824	
	名古屋支店	リニューアルグループ	TEL 058-277-5233	
	大阪支店	リニューアルグループ	TEL 06-6258-0385	